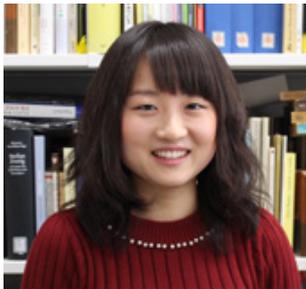


## 成城大学 文芸学部 ヨーロッパ文化学科

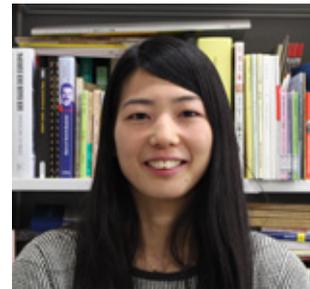
成城大学文芸学部の「文芸」とは、文学・芸術と理解します。文学や芸術の重視、ことばと美への関心は文芸学部の大きな特色のひとつです。ヨーロッパ文化学科では、ヨーロッパのさまざまな文化を多角的に学び、学生の多種多様な興味関心に応えます。



■大学生  
山川詩織さん



■先生  
富山典彦先生



■卒業生  
トリブ智美さん  
(旧姓：金川さん)

### CONTENTS

- プロフィール
- 大学生活について
- 就職活動、仕事について
- 5年後に向けて
- 高校生へのアドバイス

### ●プロフィール

成城大学文芸学部ヨーロッパ文化学科の特色を教えてください



■先生

国文学科・英文学科・芸術学科・文化史学科・マスコミュニケーション学科・ヨーロッパ文化学科の6つの学科からなる文芸学部の中でも、とりわけドイツとフランスに特化してヨーロッパの文化を学んでいます。この学科で学ぶことのできる古代ギリシアとローマの文化は、いわばヨーロッパの文化を形成している源泉といえるもの。ヨーロッパの文化は、みなさんが着ている洋服、普段の足として使っている車

などの交通機関、食生活をはじめとした生活様式の多くに影響を色濃く与えています。つまりヨーロッパの歴史、文化、思想、文学、芸術を探求することは、日本の今の成り立ちを違った側面から知るこ

とでもあるのです。

#### ■大学生

授業の題材としては、ヨーロッパの古典文学や、古典美術、クラシック音楽といったものもあれば、最新のファッションや映画、サブカルチャー的なものもあります。グリム童話といった身近なものを紐解きながら、そこに隠された作者の意図や当時の社会背景に迫っていくなど、題材が題材なだけに、授業はとてもユニークで楽しいものがほとんどです。先生方の楽しい指導によってヨーロッパ文化の奥の奥へと進んでいきますよ。最初は興味がなかった分野も、授業を通じて自然に興味をわいてくる。そんな予想外の「知の出会い」があることもこの学科ならではの思いです。

### 語学の習得が必要不可欠となるのでしょうか？

#### ■先生

もちろんそうですね。ヨーロッパ文化を学ぶ上での共通言語となりますので、一年生ではドイツ語あるいはフランス語が必修項目となります。ほとんどの学生が、ドイツやフランスのことは知っていても、言語に触れるのは初めてという人ばかりですが、abcのレベルから丁寧に指導するので心配には及びません。本人の努力にもよりますが、最終的には検定試験に合格するほどの語学力を身につけることができます。

#### ■卒業生

少人数で取り組む授業が多く、授業ひとつひとつの密度がとても濃かったことを覚えています。こと語学の場合は英語やフランス語などの授業は25名位、ドイツ語にいたっては10名を切る場合もありました。先生との距離も近く質問しやすい雰囲気の中で楽しく語学を学ぶことができましたね。

#### ■大学生

最初は英語とは違う文法に戸惑いましたが、なんども話していくうちに、自然と覚えていけましたね。慣れって怖いですね（笑）

### ●大学生活について

#### 学習におけるポイントや特徴はありますか？

#### ■先生

成城大学では、「Write（書く）、Read（読む）、Debate（議論する）」の頭文字をとった“WRD（ワードと発音）”を実践的な教育のひとつとして置いています。この“WRD”は勉強を進める上で土台となる要素ですから、1年生は全員共通のカリキュラムを通じて、大学での学びの基礎、つまりひとつの物事に対して多面的に考える力、自らの考えを第三者に伝えるテクニックを学んでいきます。

2年生までは、学びの基礎をじっくり身につけるといことですね。

■先生



その通りです。3年生からは個々人で研究テーマを設定、最も興味を持った分野を掘り下げていきます。移民社会フランスにおける子供と学校教育、絵本から紐解くヨーロッパの民俗など、とりあげられるテーマが多種多彩であることもヨーロッパ文化学科のユニークな部分です。「フランスの哲学者サルトルにみる恋愛観」「魔法昔話における植物」といったものが卒業論文のテーマとして成立する学科はそれほど多くはないのではないのでしょうか。

■大学生

他学科の授業を選択できるのもポイントですよね。例えば芸術学科やマスコミュニケーション学科の知識や事実を取り入れながら、取り組んでいる研究テーマや卒業論文のロジックや発想の広がりやを補強することもできるんです。

■卒業生

視点を変えることで、新たな事実が生まれる。その事実を確認を持たせるために、また違った事実を探す。その検証作業にハマってしまうと大変なんですけど、そこも面白さのひとつだと思って取り組んでいました(笑)。

**この学問を学ぶことの面白さはどこにあるとお考えですか？**

■先生

この学科は、医学部の学生が医師免許を取得するというような、はっきりとしたゴールはありません。しかし、実はそこが有意義であると説いています。ヨーロッパ諸国がこれまで歩んできた歴史を知り、そこからつながってきた現在を見る。そしてさらにこれからのヨーロッパがどうなっていくかを考えていく。文化の側面からはどうか？政治の観点からはどうか？歴史学の視点からはどうか？など、いろいろな角度からヨーロッパを理解していくことは、ひいては人間の根源に迫ることと同じだともいえるからです。高校の世界史で学んだ歴史的事実の裏側にある、もうひとつの歴史の姿に触れるチャンスもきっと多いでしょう。文芸学部ヨーロッパ文化学科は、みなさんの知的好奇心をしっかりと満たしてくれる場所となるはずですよ。

■大学生

それについては同感です。いままで思っていたことの先に別の事実があったりして、ひとつひとつの授業が新鮮に感じます。

## それでは、お二人の入学理由を教えてください

### ■大学生

私はカトリックの高校に通っていました。週に一度の礼拝、聖書の授業など、宗教について考える時間は多い環境でしたが、大学進学の際、これまで日常の中で自然に関わっていたキリスト教や聖書の教えが、世界史や文学にどのような関わりを持っているかを知りたいと思ったのが志望動機です。日本から世界を見ると、大体は「英語」が双眼鏡となりますが、ここではその双眼鏡が「ヨーロッパ」となる。そこからはどんな景色が見えるのか？にとっても興味津々でした。

### ■卒業生

私の場合は、高校時代の世界史の先生の影響が大きいですね（笑）。その先生は、世界中を旅行していたアクティブな方、いろいろな国で遭遇したエピソードなどをよく話してくれました。世界の名所やユニークな観光地など、貴重な写真もいっぱい見せてもらったことを覚えています。振り返ってみるとそれがヨーロッパ諸国の世界史や語学に興味を持ったきっかけだったかも。日本だけでなく世界をもっと見てみたい。そしてさらに世界からは日本がどう見えるのかを自分自身で確かめてみたかったのです。

## 世界史と語学のどちらを主に学ぼうと思ったのですか？

### ■卒業生

大学選びでは最初は英文科を希望しましたが、世界史を幅広く学べるところに興味がわき、最終的に成城大学に決めました。「文学」と「芸術」の両方を兼ね備えた「文芸学部」には、その名が示す通り、ヨーロッパ美術や文芸作品などに精通した方がたくさんいらっしゃいます。そんな多様な教授陣にご指導いただけることもポイントでした。18世紀の版画を題材に当時の世相を読み解くなど、楽しい授業もたくさんあるんですよ。

## ちなみに先生がヨーロッパに興味を持ったきっかけは何でしたか？

### ■先生

私ですか！？（笑）。これを話すと大体驚かれるのですが、実は高校時代は数学研究部のマネージャーを務めるほどの理数系だったのです。「いずれは理論物理学者になり、世界で起きる事象を数式で解明してやろう」。そんな理想をもった高校生でした（笑）。しかしながら高校3年のときに出会ってしまったゲーテに強い感銘を受け文系にスイッチ。数式ではなく「言葉」や「表現」の力で、この世界のできごとを解明してみたいと思ったのです。

### ■卒業生

すごい！数式で世界を！スケールが違いますね。そして文系にうつった後もその目標を目指すなんて、さすが先生らしいですね。

**そんな先生の現在の専門分野について教えてください。**

■先生

ドイツ語・ドイツ文学を専門に教えています。作家の心情や生きてきた時代背景をドイツ語のテキストを教材としながら、皆でじっくり読み解いていきます。しかしながら、単に表現や歴史をなぞることが目的では決してありません。その文学作品が後世に伝えたもの、その時代は現代と比較するとどうだったか？ 生きている我々との共通点はあるか？などを見出し、ドイツ文学あるいはヨーロッパの文化を介して、改めて自分たちを見つめ直すことを最も大切なこととして捉えています。私にはなかなか難しい分野になりますが、講義中に昔と今のファッションの違いなどについて質問を受けることも（笑）。ヨーロッパの文化は、私自身もまだまだ掘り下げる場所がまだ残る世界です。学生と共に日々勉強ですね（笑）。

■卒業生

ファッションに関する質問ですか？先生はその時どうしたのですか？

■先生

他の学科の先生で詳しい方に私自身が質問（笑）。できるだけ回答するようにしていましたよ。学生の好奇心から生まれる疑問には可能な限り答えていきたいと思っていますからね。

**卒論のテーマはどのようなものだったのでしょうか？**

■大学生

日本なら小学校5、6年生が読むようなドイツの児童文学を研究テーマに卒論（卒業論文）に取り組みました。小さな子が読む物語であっても、戦争中であれば、政治的な影響などが物語の中に反映されていたりもします。その部分に光をあてて、その時代を知っていくことは、難しくもあり、やりがいに満ちた部分でした。いろいろな側面から物語を捉えるには、こちらの知識量がモノをいう場面もしばしば。一時期は、ドイツ語の書籍を大量に読みました。



■先生

卒論への取り組みもそうだけど、校内のキャリアセンターでサポートスタッフとして、一生懸命に取り組んでいたと聞いていますよ。

■大学生

はい。成城大学では1年生から4年生に対して、段階に応じたキャリア支援を行っているのですが、私は、将来に向けてやっておいたほうが良い勉強などのアドバイスを後輩に向けて行っていました。私のアドバイスが役立ったといってくれる後輩もいて、とても思い出深い体験になりました。

**キャリア支援について教えてください。**

■先生

キャリア支援を行うキャリアセンターでは1年生から2年生に対しては、効率的な勉強方法など、毎日の大学生活を充実させるためのアドバイス。3年生からは就職に向けた具体的なサポートを行っています。成城大学には、資格取得やインターンシップ、留学など、自分自身を高める制度も多数あり、それらについてもキャリアセンターが個々の状況や目標にあわせてアドバイスをしています。自分の将来を少し考え始めたとき、ちょっと学生生活に困ったときは、迷わずキャリアセンターにいくと良いと思います。

**学生生活やキャンパスについて教えてください。**

■先生

成城大学は新宿からわずか15分の位置にあります。周辺は静かな住宅街なので、勉強にも身が入るのではないのでしょうか。設備的な部分では、図書館の蔵書数は約70万冊。これは学生ひとりあたりの蔵書数に換算すると約120冊を誇ります。クラブ活動も盛んでインドアからスポーツまで約90のクラブがあります。勉強とスポーツの両方に皆が打ち込んでいるのかな？お二人はどうですか？

■卒業生

私は図書館で映画ばかり見てました…。DVDを自由に視聴できるので時間があれば図書館にいました。でも。極力フランス映画を見るようにして、自分の勉強にプラスになるように心がけましたよ！（笑）。

■大学生

都心から近いのは確かに良い部分かも。授業が終わったら友達といっしょに街やカフェに出かけるのも気軽にできますしね。私は甘いものが大好きで、よく近所のスイーツショップに足を運んでいました。

■先生

大学生活は勉強だけではないですからね。たまの息抜きは結構、ただ、ほどほどがいいでしょうね（笑）。

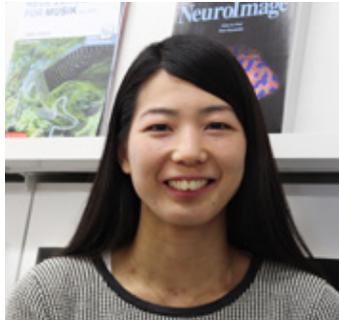
**●就職活動、仕事について**

**現在のお仕事を教えてください。**

■卒業生

日本のステーションリーメーカーに勤務しています。約3年間、パリのループル店で副店長を務めた後、昨年の9月に帰国、現在はリテール（小売）に関連する部署で働いています。

### 在学中に学んだことが生かされた場面はありますか？



#### ■卒業生

在学中はフランス美術のゼミでインテリアデザインについて学んでいました。そして、現在の仕事で、囲まれているステーションリーは機能面のみならずスタイリッシュなデザイン性の高さがセールスポイントとしてあります。フランス美術とステーションリー。一見違う分野のように感じますが、ともに「造形美」に対する思考のあり方はとても似ています。そういった意味からも、直接的ではないにせよ、学んできたことがちゃんと生かされていた場面は幾度もあったと思います。

#### ■大学生

学校で鍛えられた語学も役立ったのではないですか？

#### ■卒業生

そうですね、最も直接的に役立ったものを上げるとしたら、フランスのお店でも使っていた語学ですね。2年生のときにフランス旅行に行くタイミングがあったのですがいままで授業の中でしか触れていなかったフランス語が街中に溢れかえっていた！（笑）。当たり前のことですが、その時は不思議なカルチャーショックを覚えました。さらに、実際に学んできた言葉を使って会話ができることに改めてビックリ（笑）。その時に、ちゃんと言葉が自分の体の一部になっていたことを実感しました。

#### ■先生

語学は実際に話してコミュニケーションができた時にはじめてその有用性を感じるものですからね（笑）

#### ■大学生

私は専門商社への就職が決まっています。語学を使う場面があるかどうかはまだわかりませんが、学生時代に磨いてきた、「さまざまな角度や見方で思考し、そしてその結果を発信する力」は、どんな役割を任された場合であってもきっと役立つと思います。

#### ■先生

山川さんが言っている、物事のとらえ方や考え方、発言する力をトレーニングするのは、社会に出るからは実は難しい。日々の仕事をこなすことに一生懸命になりますからね。みなさんよりも長く生きている私が言うのだからこれは間違いない（笑）。ヨーロッパ文化学科で鍛えた幅広い視野から物事をとらえる力は、総合職でも営業職でも、あるいは管理職になっても行動や判断の基礎となって、山川さんの味方として一生役立ってくれると思いますよ。

## 卒業生はどんな業界で活躍しているのでしょうか？

### ■先生

語学が活かせる仕事や企業に進む生徒がいれば、文化や芸術の分野をさらに掘り下げるために学芸員を目指す学生もいますね。キャビンアテンダントとなって世界の空で活躍する先輩、旅行関連の仕事で活躍中の先輩など様々ですね。

## ● 5年後に向けて

### 5年後、みなさんはどんな自分になりたいですか？

#### ■大学生

社会人としてそれなりに経験を積んでいる頃。うーん。でもどうでしょう？まだ実際に働いているわけではないので想像もつかないですね。だけど、語学そのものはずっとやっていきたいと思っているので、その頃、語学が活かせる役割になっていればいいですね。先ほどもお伝えしましたが、広報やサポート的な仕事への興味もあります。大学に戻り、キャリア支援や語学のスキルアップに関わる仕事に道が開けるといいですね。

#### ■卒業生

もともと持っていた海外で働くという目標は、パリのお店で叶えることができました。次の目標は学生時代とフランスで得た経験をもっと活かした活動ですね。学生時代の仲間、フランスで出会った人々とつながりながら、なにか価値あることを実現できればと思います。

### その目標に向けて、今、取り組んでいることはありますか？

#### ■卒業生

活躍するチャンスはいつやってくるかわかりません。いつでも語学を活用できるように、フランス語を読んだり・聴いたりには常に怠りませんね。また、なにか新しいことにチャレンジするときに手助けしてくれる人脈づくりも大切だと思っています。学生時代からの友人とも頻りに連絡を取り合っています。みんないろいろな分野で活躍をしていて、いい刺激になります、「私もがんばるぞ！」と（笑）。私が3年ほどパリにいたことは、友人やその周りの人々も知っていて、「パリはどうだった？」「暮らすとしたらどんな場所がいいの？」と、私の体験談を聞かせて欲しいという人もいます。この出会いのひとつひとつが、私にとって未来に持っていきたい財産。いつまでも大切にしたいですね。

### 先生が思う、成城大学の5年後はいかがでしょうか？

#### ■先生

5年後……ギリギリ私は、まだいるかな？(笑)。それはさておき、18歳人口はさらに減少する中であっても、成城大学は創立100年(2017年)の誇りと尊厳を守りつつ、より質の高い教育と豊かな人間形成ができる場所であることを追求したいと思います。未来ある若者たちが、それぞれの好奇心や向学心を存分に発揮できる大学であること。その願いは、どんな時代になっても変わらないでしょう。

## ●高校生へのアドバイス

### 高校時代にやっておくと良いことはありますか？

#### ■卒業生

受験勉強ももちろん大事だと思いますが、私は人脈づくりも大事なことだと思います。なぜなら、社会に出ると人との関わりは増えますが、高校時代の仲間のような気負い無く付き合える人と出会う機会はそれほどないからです。ちょっと趣味が違っていたり、個性的な友人であっても、将来どこかでお互いを必要とする場面がくるかもしれませんから、たくさん友人をつくっておいたほうが良いと思います。

#### ■先生

確かにその通り。大学に進学したり、就職で社会に出ると、なかなか接点をもてなくなってきますからね。高校でしか作れない仲間はとても大事かもしれませんね。

#### ■卒業生

感性を高め、知識を広げるためにも、本や映画をたくさん観なさい、音楽を聴きなさいといったアドバイスがありますが、私はそこから一步踏み出して欲しいと思っています。例えば、本や映画、雑誌を見ていて気になるアーティストがいたら、その作品や人物像を徹底的に調べて掘り下げてみる。そこから派生するものがあればそちらにも興味を広げていく。そういった活動は興味や理解を深めるクセをつける意味でも有益だと考えています。憧れのアーティストの作品を目指して、思い切って遠くの美術館を目指して旅してみる。そんな行動力も後に武器になると思います。



#### ■大学生

私は「考える」こと。いえ、「考え抜く」ことに少しだけ力を向けて欲しいと思っています。なぜなら、自分が好きなものに対して、ただ好きという感情だけでなく、なぜ好きなんだろうと理論的に考え、疑問を解決することで、本当の気持ちや自分のやりたいことが見えてくると思うからです。大学選びのときに「就職活動にプラスになりそうだから、あの学部にしよう」という見方もありますが、それが自分にとって最善の道かはわからないと思います。だからこそ、たくさん時間を使って、一生懸命考え抜いて欲しいですね。

## ■先生

みんなしっかりした意見を持っていますね。驚きました。私からは簡単なアドバイスをひとつだけ。ぜひ「書く事」をやしてほしい。そして続けて欲しい。日記でも良いので起承転結が成立したものにぜひトライして欲しいです。書くという行為は、いくつもの情報を頭の中に入れ、そこから必要な事柄や伝えたい感情を整理し、文章として発信していることです。大学に入ると、レポートの作成からはじまり、最終的には卒業論文制作という大きな課題が待っています。これは絶対に避けて通れない道（笑）。高校生うちに、「書く」という作業になれておくことをオススメします。

## 最後に高校生に向けてメッセージをお願いします

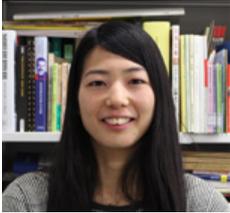
## ■先生

ヨーロッパ文化学科を選び、学んでいる学生には、純粋な世界史への興味で入学した学生もいれば、食文化やファッション、旅行、デザインなどの分野からヨーロッパを深く知りたいという学生もいます。どんな目的であれ、対象であれ、学生の探求心や好奇心を満たしてくれる懐の深さもこの学科の魅力です。興味関心の対象はおのずと見つかってきますから、明確な目的はないけれどヨーロッパや世界の歴史に興味がある。そんなゆるやかな志望動機でも問題ないと思います。たくさんの学生がここでヨーロッパの魅力を再発見してくれることを切に願っています。

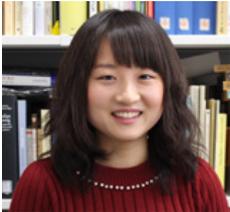
●インタビューに答えてくれた方々



■先生  
富山典彦先生



■卒業生  
トリブ智美さん  
(旧姓：金川さん)



■大学生  
山川詩織さん